

トドマツノキクイムシ

トドマツの樹皮に直径2mmほどの丸い穴が開き、粉状の木くずがでる。ときにヤニがでる。樹皮下に甲虫、最大長約3mm。体は黒く、尾端背面が茶色っぽくなる。内樹皮に木の水平方向にのびるトンネルがある。幅約2mm、最大長30mm。普通は新鮮な倒木や丸太に発生する。生きている木でも異常乾燥などで衰弱すると被害を受け枯れることがある。材にはほとんど潜らないので、木材の価値を低下させることはない。

【学名】 *Polygraphus proximus*

【分類】 コウチュウ目 (Coleoptera) , キクイムシ科 (Scolytidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州; サハリン, シベリア, 朝鮮半島。

【特徴】

樹皮下にある産卵のための孔道（母孔, ぼこう）が水平に掘られることにより, 容易に識別できる。

【生態】

主にトドマツなどモミ属に発生する。チョウセンゴヨウにも寄生する。

たいてい年2世代。成虫で越冬。春に新鮮な丸太や衰弱木の樹皮下に穿孔し繁殖する。幼虫は主に内樹皮を食べて成長する。蛹を経て夏に成虫になり, 再び繁殖を繰り返す。次の世代の成虫は樹皮下や立木の樹皮の浅い部分に潜って越冬する。

【被害と防除】

衰弱木を加害し枯死させることがあるが, 被害は少ない。天然林では主に中大径木で被害が発生するといわれている。若い林では伐倒木を放置しても被害が発生することはごくまれであるが, 異常気象などで木が衰弱すると被害を受けることがある。天然林や高齢林の間伐では虫の繁殖期である春から夏の間は林内や林縁に丸太を放置しない。風倒被害林分でトドマツが孤立して残っている場合は被害を受けやすいので早めに収穫する。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

1994. 小泉力. トドマツノキクイムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集, 森林昆虫, 総論・各論: 178-179. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)

